

平成26年度 海外臨床薬学研修報告書

「USC 研修に参加して学んだこと」

研修期間：平成26年7月26日～8月10日

研修先：南カリフォルニア大学薬学部

薬学部薬学科 5年

100973229

近藤 祐生

平成 26 年 7 月 26 日～8 月 10 日の約 2 週間、南カリフォルニア大学(USC)での海外臨床薬学研修に参加した。医療の最先端であるアメリカにおける薬剤師の仕事や教育を実際に見ることにより日本との医療に対する意識や制度の違いを体感し、日本の薬剤師地位や意識の改善のために、今後私たちは何が出来るかを知るために研修に挑んだ。

研修内容は、主に学校での講義、施設見学であった。講義は留学生のみのクラスで行われ、アメリカの薬学教育、個人情報保護、SOAP ノート、糖尿病、高血圧、不眠、うつ病について学んだ。

アメリカの薬学生は 4 年生であり、1.2 年時にエクスターンシップ、4 年時にクラークシップという臨床研修を行う。多くの臨床研修を行い、実際の医療従事者と話すことにより、薬剤師になった時によりスムーズな仕事が行えるようになるのだろう。また、薬剤師になった後も 2 年に一度、免許更新の試験があり、薬剤師のスキル向上を目指している。

SOAP ノートに関する講義では、USC の生徒相手に服薬指導のロールプレイを行った。模範とされる服薬指導の内容には、作用機序、患者が理解したかのテストなどもあった。この時、アメリカの患者さんには専門用語を使っても問題ないように感じた。私は海外研修前に薬局実習を行ったが、日本の患者さんには作用機序の説明や専門用語の使用はあまりしない印象であった。この違いは、アメリカにおけるセルフメディケーションの普及によるものだろう。患者自身の医療に対する知識が違えば、より高度な服薬説明、治療の供給ができると思った。

糖尿病、高血圧の講義では、それぞれ疾患概要、ケーススタディ、グループディスカッションが行われた。研修に参加した学生は、韓国人と日本人の約 40 名おり、グループディスカッションではケーススタディに対する意見交換が行われた。この授業自体は、日本との違いはあまりなかったが、韓国人学生の積極性を感じた。

施設見学では USC Keck Medical Center、USC-Norris Cancer Center、Plaza Pharmacy に伺った。

USC Keck Medical Center は大学病院であり、病院における薬剤師の仕事について学んだ。ここで働く薬剤師はラウンドに同行し、プロトコールの作成が行える。薬剤師は、医師の了承があれば投与量、薬剤の変更が出来る。日本の薬剤師とは違い、薬剤師の職域の広さ、信頼性を感じた。また、カリフォルニア州の薬剤師はワクチンの接種が行える。日本では医療行為に職種の違いがあるが、アメリカは他職種の仕事の重なりがあることにより互いの仕事についての理解が深められる。このような幅広い仕事ができることにより、医療従事者は対等な関係で働くことができるのだろう。さらにテクニシャンの存在やピッキングマシンなどの機械の導入により、より高度な薬剤師としての仕事が行える。薬剤師の専門性を生かせる職場環境、制度の違いを感じた。

また、私たちはサンタモニカにある homeopathic pharmacy に伺った。ホメオパシーとは、体の自然治癒力を引き出すという思想に基づいて、病気の治癒をめざす行為である。この薬局はホメオパシーの概念を重要視しており、ハーブやサプリメントを多く販売して

いた。アメリカの薬局には多数のサプリメントが販売されている。これは、西洋薬はよりコストがかかり、腎臓、肝臓への影響が多いからである。なぜ、日本にはこのような考えが普及していないかという、アメリカと日本の医療制度の違いが関連している。アメリカの医療費は高額であり、患者は病気になって病院にかかるより、予防して病気にかからない方がよいという考えを持っている。これがサプリメントによる予防医学である。アメリカにおける患者のセルフメディケーションの意識の高さは、日本の患者も見習うべきであると思った。販売しているサプリメントの量も、日本のものよりかなり多かった。薬剤師は、生化学の知識を生かすことによって患者さんにより良いサプリメントの選択が出来る。また、薬剤師が積極的にアドバイスをすることによって医師の負担を減らす事が出来るだろう。

今回の研修で、最も印象的であったことはアメリカの薬剤師の積極性である。アメリカの薬局は、日本の調剤薬局よりも患者さんとの会話時間が長く、提供する情報量の多さを感じた。積極的な薬物療法のアドバイスの供給は、患者さんの治療意識の改善にもつながるだろう。そのため日本の薬学生も、OTC 販売の実習が必要だと感じた。医師から出された処方通りに、指導するのではなく、患者さんの症状、悩みを聞き、薬剤師としての知識を用いた仕事ができれば、日本の制度の変化も起こりうるのではないかと感じた。アメリカとは、医療制度が異なるため、アメリカと同じ医療形態になることは不可能だが、より良いところを模範することによって日本の医療の向上が期待できるだろう。

最後に、今回、とても価値のある研修を経験することができました。参加するにあたり協力をして下さった関係者の方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。このプログラムに参加することにより、薬学生としての自身の視野が広がり、また薬剤師として働くための意識の改善や向上心を持つことができました。この研修で得た知識や経験を今後の実習や学生生活、将来につなげていきたいと思えます。